

## 秦野市立渋沢小学校

研究テーマ：“粘り強い渋沢っ子”を育む授業づくり ～学びあう活動の工夫を通して～

### 1、実践の目的

本校では、「粘り強さ」というテーマで研究を進めることとした。本校児童は、明るく素直な子が多いが、難しい問題は最初から諦めてしまうという実態がある。そこで粘り強く最後まで学習に取り組んでほしいという教師の思いからテーマを設定した。粘り強さとは、様々な要因が関わりあって育まれていくものと考え、学びあいを中心に、ICT 機器の活用や場面設定・発問の工夫など、様々な角度から子どもたちの粘り強さを引き出し、学びを深められる授業づくりを目指して研究を進めた。

### 2、実践の内容

#### (1) 授業公開と授業検討

各学年を低学年、中学年、高学年、支援級の4ブロックに分けて、ブロックごとに授業について指導案を検討した。ブロックの代表者1名が授業を公開し、検討した。



#### (2) 講師による講演会

明星大学客員教授兼明星小学校校長である細水保宏先生に「子どもたちがやりたくなるような算数の授業づくり」というテーマで講演していただいた。児童が「やってみたい」と思える授業づくりのヒントや実践例を教えていただいた。

#### (3) 全校の取り組み

今年度は、各ブロックでの授業研究と算SUN タイムという朝の算数プリントの時間に取り組んだ。1年をかけて、次年度以降も使えるように算数プリントをデータにし、まとめた。また既習事項でのつまずきを少しでも減らすために、プリントの内容もその時に学習している単元に出てくる既習を復習できるものとした。



### 3、実践の成果

- 教師が集まって授業の参観を行ったおかげで、より深い学びを得ることができた。
- 研究のテーマを明確にした指導案を作成することで、協議の柱からぶれることなく研究を進めることができた。
- 算SUNタイムでは、意図をもってプリントの作成を進めたため、児童一人ひとりの計算の力を伸ばしたり、「やればできる」という思いを高めたりすることができた。

### 4、今後の展開

- 次年度は、渋沢小学校の児童の粘り強さのモデルを確立していくことが有効であると考えている。
- 児童にアンケートをとるなど、データを活用した研究を進めることができなかった。そのため、検証が不十分になってしまった。研究結果をより実態に近づけるために、データ収集を行う必要がある。
- 今年度は、校内での授業研究は行うことができた。しかしながら、外部講師に講演を頼んだり、授業の指導講評をしてもらったり等客観的に示唆してもらう機会が少なかったため、研究を深めることが難しかった。  
夏の研修で講演をもらったように、多くの講師の意見を取り入れながら研究を進めていくことが有効だと考えた。

渋 沢 小



算 **SUN** タイム